

保護者のみなさまへ

令和 6 年度 施設関係者評価の保護者アンケートのご協力ありがとうございました。11 月 8 日(金)に保育関係者をお招きして当園の保育環境などについてご覧いただきました。保護者アンケート・保育者自己評価・保育関係者評価の結果が出揃いましたら市に報告する予定です。

今回は保護者アンケートの結果をまとめ、ご意見についてお返事しておりますのでご確認をお願いします。

なお、保護者アンケート・保育者自己評価・保育関係者評価の結果は、4 月になりましたらホームページにてアップします。合わせてごらんください。

令和 6 年度保護者アンケート回答率 51.6%(33 戸)でした

ご意見は、本文そのままにそれぞれ番号を振って回答しています。ご意見と合わせてお読みください。

(1)園の方針の理解と保護者の立場でのご意見ありがとうございます

①裸足で過ごすことは好ましいことですが、裸足を強要することはありません。こどもなりの事情や発達の特 性があるからです

社協園は「裸足保育」は前面に出していません。しかし夏場は、自分から裸足になるこどもが出始めます。それを機に水遊びや泥んこ遊びに興じているこども達に裸足の気持ち良さや利便性を伝えるとさらに、裸足になるこどもが増えていきます。「裸足になりなさい」ではなくて「裸足は気持ち良いよ」「地球のパワーを感じるよ」「裸足で遊ぶと足腰が強くなるよ」などのアプローチから裸足を推奨し促しをしています。私は、毎年 4 月 1 日の新年度の始まりの挨拶の時に、裸足の話をします。庭での裸足は引き続き積極的にすすめていきます。

新園舎に移ってからは室内ではシューズが主になりましたが「シューズを履きなさい」とは言ってません。裸足で過ごすこどももいます。必要に応じて履いたり履かなかったり…それを自分達で使い分けているように思います。室内シューズは必須ではありませんので、もってくる持ち物の中にも明記していません。履かせる、履かせないは保護者の意向で良いと思います。もちろんこども達にも室内でも裸足の推奨はしていきます。年度が変わるこの時期に、室内外問わずの裸足のすすめの話をします！

②木登りの流行時季があるようです

庭のまんなかの合歓木は、旧園舎の時代から唯一、木登りが可能な木です。こども達の中で、流行する時季があるらしく、年中登っているわけではありません。進級したての頃や涼しくなった秋の頃が盛り上がっていました。本年度は、冒険レンジャーの全てが完成し、幹回り 2m を超える銀杏の木登りを挑戦しているこども達です。発信不足もあると思いますので、流行期に挑戦する姿を多くアップしていきます。

③園の考え方は、便りやドキュメンテーション、SNS などを通じて発信していきます

園へのご理解や方針の共感、ありがとうございます。この文書の最後にまとめとして書いておきます。ご覧ください。

(2)リズム体操や散歩、絵描きなどのご意見についての回答

①こども達の自由な時間を確保したい。自由に動くから自然に体力や運動能力が身に付く

保育内容を変えたいと模索していたところに『さくらさくらんぼリズム』を取り入れた経緯があるのは確かです。『さくらさくらんぼリズム』はこどもの運動発達を体系的にまとめられた運動方法です。3 年間弱続ける中で、毎日同じ時間に全児を集めて行うことに保育士のエネルギーと時間を要したことを覚えています。こども達の主活動が『リズム運動』であり一斉的な活動に次第に疑問を持ったものです。全国的に『子ども主体の環境による教育・保育』が叫ばれていたところに、私達も感銘をうけ先駆的な保育園から学び、今日のような保

育の内容に転換してきました。たくさんの研修で『こどもが主体で、こどもに選択肢がある保育』は、こどもの運動能力が高く、一斉的にこどもを動かしている園と比べると良く歩いていると言う研究結果を聞いて驚いたものです。こどもは自由だと自分のしたいことを見つけるために園内を良く歩くのだそうです。こどもに万歩計を付けて研究されていた大学の先生もおられました。だからあえて運動の時間や機会を設けなくてもこどもの体力や運動能力は付いていくことを感じています。平面的な庭ではなく、築山や冒険的な挑戦ができる大型遊具を設置したのも遊びの中から習得して欲しいねらいがあるからです。

そして散歩もそうです。運動不足を補うために散歩を取り入れることは良くあります。しかし、この広い園庭や室内を自由に遊ぶために歩き動き回っているこども達は自然に脚力も体幹もついてきています。私が若かった頃に、縄跳びや鉄棒などの練習をさせていたことが嘘のようです。

雨降りの日も少しの晴れ間を見つけては庭に出ています。傘をさして庭を歩くことも良くあります。何日も雨が続いたとしても室内の遊びにこと切れることはありません。それだけこども達は遊びに集中しています。谷頭こども園のこども達は、静(室内あそび)と動(庭遊び)を使い分けています。習慣的な散歩は有りませんが、園外に出かけた時に何キロも平気で歩き、へたり込むこどもはいません。毎日の遊びが自然に脚力、体力をつくるのに繋がっています。もちろん散歩で得られることも数多くあります。気候や保育士の配置に考慮して出かけていきたいと思います。

②こどものアートのセンスと感覚は多種多様

谷頭こども園では、『描く』環境は室内外共に置いています。大人が敬遠してしまう絵具やぬたくりの道具も常に揃っています。こどもは、その子なりの感性で描いているのをよく見かけます。女の子は絵を描くのが好きですね。そしてその特徴ですが、ひいき目に見ても漫画のような描き方にはならず、こどもらしい絵を描いていると思います。

私達は、『絵を描く』ことだけをこどもの自己表現方法と捉えていません。男の子は絵描きが苦手なこどもは、多いです。でも立体的に想像する表現は得意です。積み木で街や恐竜の世界を作ったり、LaQで虫やロボットなどを作ったり 庭に、石や棒きれを並べて表現することも良くあります。こども達の手にかかればいろいろな道具で、それぞれのセンスで多様な表現をしています。夏の染め絵や泥や絵具でのボディーアートなど。私達は、それを谷頭こども園のこども達のアートだと考えています。ご意見にあるこども達の柔軟な発想を妨げることなくいろいろな材料や道具をそろえてアートにつながる環境やアイディアを出し合っています。それらは、ドキュメンテーションやInstagramで紹介したり、ホールに掲示したりしています。是非ご覧ください。

③社協園の子ども観・保育観・保育論は引き続き発信しています

3.4.5 歳児は(ひまわり・ゆり・すみれ組)日々のドキュメンテーションの中に子ども観や保育観をそして担任の想いも書き入れるようにしています。Instagramや園長のたより、谷頭こども園だよりにおいても更に、ポイントを置いてお示ししていきます。

(3)行事の考え方について

どの年齢のこども達の行事参加のご意見なのかが分かりませんが、0.1.2 歳児(ばら・たんぽぽ・さくら組)においては令和 6 年度のご意見の回答で行事のあり方や考えを説明しております。社協園は日常のこども達の遊びや生活をこわさない保育をすすめています。0.1.2 歳児は、発達的にも集団で動かしたり、1人が全体に合わせたりすることは難しいです。行事を成長が分かる機会と捉えることは自然なことだと思います。過去の私達もそうでしたから。日常の延長にある行事は、こども達にも働く保育者にも無理がありません。親子参

加の行事は、2歳児(さくら組)クラスからとなっています。それでも希望者のみの考え方です。

0.1.2 歳児さんの保護者の中には、物足りなさを感じておられる方も少なくないと思いますが、ご理解をお願いいたします。

(4)今日の様子を伝えて欲しいご意見について

0.1.2 歳児の生活ノートでは、連絡のやり取りではなく、その日のこども達の遊びや学び、成長などにポイントをおいてコメント欄に記入するようになっています。担任は、仕事のシフトの関係で受け持ちの全てのこどもの様子を口頭で伝えることはできませんが、その日の遊びや生活のほんの一部を生活ノートを介してお伝えしています。そこは、ご理解願います。直接会える場合には、積極的にお伝えしていきます。

また、以上児は特に受け持ちも多く、保護者との一対一のコミュニケーションは、取りづらい状態ですが、ドキュメンテーションやインスタなどで遊びや活動の一端を配信しています。平均的に全てのこどもが代わる代わる載るようにしておりますのでご覧ください。合わせて直接のお話も機を逃さず努めて参ります。

(5) コドモンのお知らせのカテゴリーが全て同じであるのご意見について

これは、コドモンの事業所にも問い合わせております。新年度になって使いやすいように更新できることを期待しているのですが。園としてもカテゴリーを「お知らせ」、「お便り」などに分けて簡単に探しやすく、過去にたどれるように分けて配信していきます。新年度から実行します。

(6)足洗のタライの衛生面の不備について

タライの水の中で足の泥を落とすことは習慣としてありました。ご指摘のように、使い回しにならないように次のこどもが使う時には水を替え最後は、水道水(流水)で足を洗うように声掛けを行っていきます。裸足になる季節がやってきます。定期的に足の洗い方の説明を全体で行い、後は個々のこどもに洗い方の確認をしていきます。細やかな配慮が足りず申し訳ありませんでした。

最後に…

保育者としても未熟な私達です。保護者のみなさまとの信頼関係なくしては教育・保育の実践はできません。

入園時に保育方針や子ども観、行事などの考え方も説明しておりますが、イメージと違ったと思われる方も少なくないでしょう。しかし、保護者のみなさんの意向や要望の全てに合わせることは、どう考えても無理です。保育者主導の保育からこどもが主体の保育に少しずつ移行してきたこの9年間。保護者とのぶつかりや厳しいご意見があったのも事実です。まずは「こども達」、「保護者」、「働く保育者」にとって利用しやすく運営しやすいやり方を模索してきました。これまで、保護者のみなさまのご理解とご協力があったからこそここまでられたと受け止めております。

引き続き社協園の保育方針やこども観、教育・保育実践については一貫して邁進していきます。ご意見は真摯に頂戴しますので、お聞かせください。ありがとうございました。